第２章　調査・研究略史

１　周辺の地形と歴史

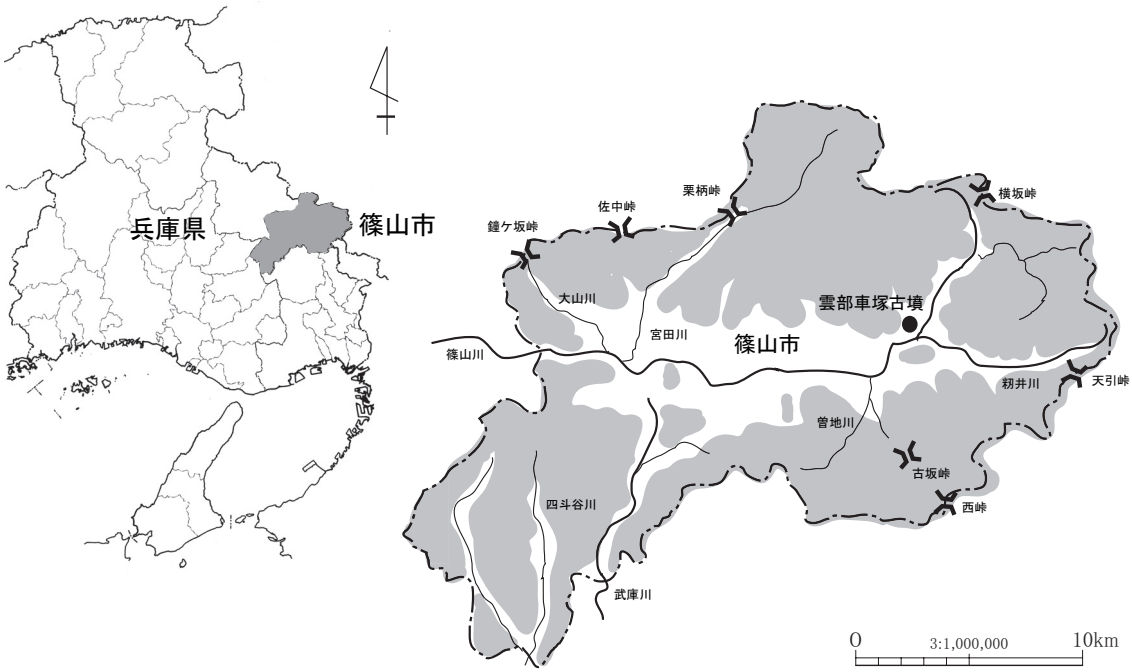
（１）周辺の地形

雲部車塚古墳が所在する篠山市東本荘は市街地から東へ５㎞ほど離れたところであり、いまだのどかな農村風景が広がっている。このあたりは、兵庫県の東端、京都府・大阪府に接する丹波山地中に開けた篠山盆地の東部にあたる。

篠山盆地は東西15㎞、南北５㎞、東西に細長い盆地であり、現在約５万人の人々が暮らしている。標高200ｍを超える高地であり、北側には標高400ｍを超える多紀連山が連なる。篠山川が盆地中央を東西に流れ、西端の川代峡谷を経て丹波市山南町で加古川に合流する。また盆地の西部には谷中分水界があり、大阪湾に注ぐ武庫川の源流域となっている。

篠山川には、大山川、宮田川、曽地川、籾井川という主要な支流があり、それぞれの河川の谷筋が、盆地と外部の世界をつなぐ接点となっている。大山川を遡ると、鐘ヶ坂峠を経て、丹波市柏原町（加古川水系柏原川流域）に至る。このルートは古代山陰道の推定ルートであり、現在も国道176号線が通る。宮田川を遡ると、佐中峠もしくは栗柄（くりから）峠を経て、丹波市春日町（由良川水系竹田川流域）に至る。このルートは古代山陰道丹後支道の推定ルートであり、現在は近畿自動車道敦賀線が通る。曽地川を遡ると、後川から西峠を経て、川辺郡猪名川町（猪名川源流域）に至る。籾井川を遡ると、天引（あまびき）峠を経て南丹市園部町（淀川水系大堰川流域）に至る。そして篠山川本流を遡ると、板坂峠を経て、綾部市方面（由良川流域）に至る。

雲部車塚古墳がある場所は、籾井川、篠山川本流、曽地川の各ルートが出会う場所であり、篠山盆地から摂津方面、丹波南部を経て山城方面、丹波北部を経て丹後方面、そして播磨方面へと道が開けている。篠山盆地の東端であり、現在の篠山市街からみると辺境の地に感じられるが、交通路からみると、



第２図　篠山盆地の地形

まさに要衝というにふさわしい場所である。

古墳は東本荘集落から約300m離れた東側にあり、県守集落のある谷筋の出口に形成された扇状地上にあたる。東西を比高差約30～40mの丘陵に挟まれ、付近の谷幅は約300mであり、南側約200mのところを篠山川が西流している。篠山川は古墳のすぐ西側で支流の籾井川と合流し、東本荘集落の南側で大きく南へと屈曲する。このあたりでの篠山川の谷筋の幅は南北500mほどである。

（2）歴史的環境

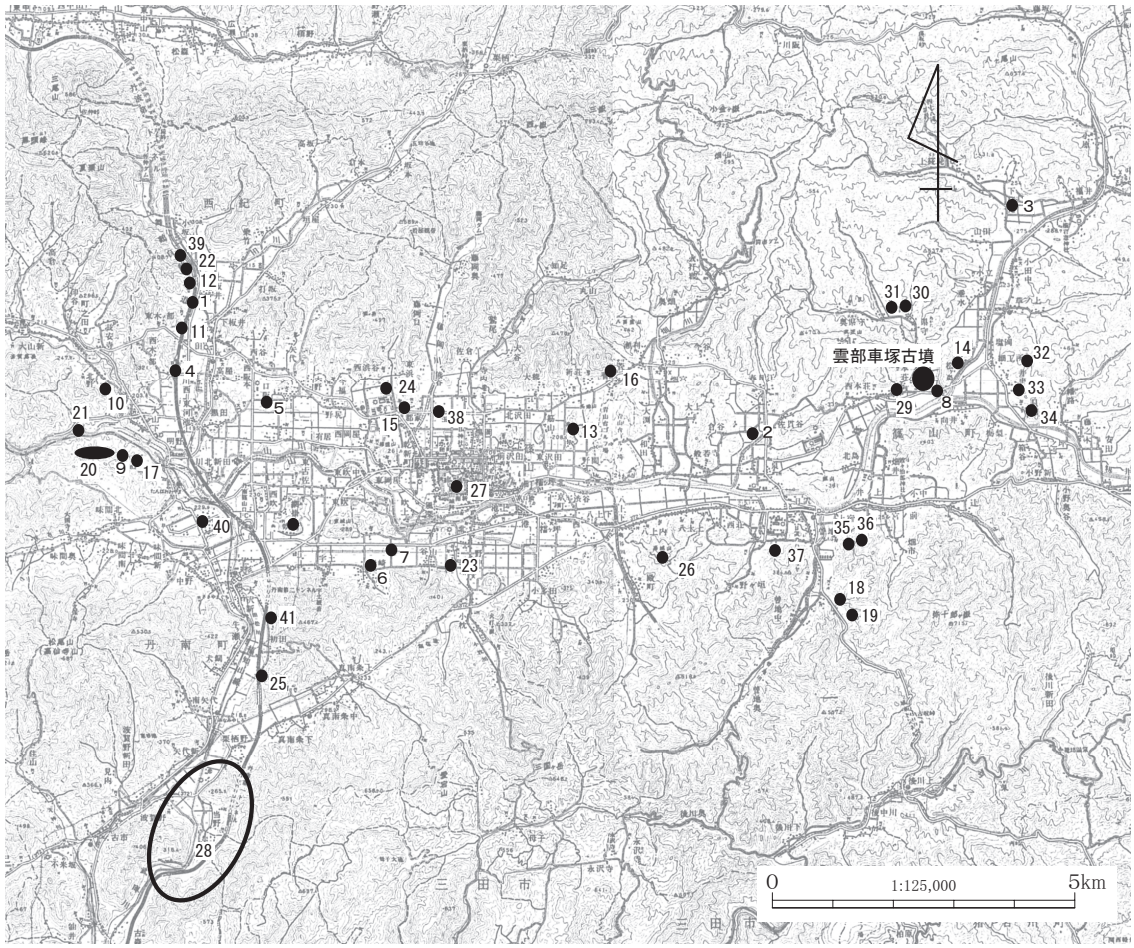
旧石器時代～弥生時代　篠山盆地に人類の足跡が刻まれるのは、旧石器時代のことである。盆地西部の篠山市上板井の板井寺ヶ谷遺跡〔1〕ではＡＴ火山灰を挟んだ上下で石器ブロックが発掘されており、当地における旧石器時代のはじまりが、約３万年前に遡ることを物語る。これに続く縄文時代の遺跡の数はいまだ少なく、藤岡山遺跡（後期～晩期）〔2〕や下篠見遺跡（晩期）〔3〕などでまとまった遺構・遺物が調査されているほか、板井寺ヶ谷遺跡〔1〕や西木之部遺跡〔4〕で土器や石器が出土している程度である。

弥生時代に入ると篠山盆地の遺跡数が急増する。この時期の遺跡は58遺跡あり、うち４遺跡が墳墓、そのほかの54遺跡が集落ないしは散布地である。遺跡は篠山川およびその支流が形成した自然堤防・扇状地上に立地し、盆地西部の密度が高い。遺跡は時期ごとに消長があり、前期から中期前半の遺跡数は少なく、盆地西部の口阪本遺跡〔5〕、中央の岩崎四ノ坪遺跡〔6〕、谷山遺跡〔7〕、盆地東部の藤岡山遺跡〔2〕などが知られている。これらの遺跡は、以後後期まで継続しており、篠山盆地における中心的な集落である。雲部車塚古墳が築かれている場所も弥生時代の集落遺跡であり（車塚の坪遺跡）〔8〕、弥生時代の木棺墓などが確認されている。

遺跡数が増加するのは中期後半から後期にかけてである。盆地西端部の桂ヶ谷遺跡〔9〕や北野遺跡〔10〕では、弥生時代中期後半から後期にかけて、篠山川・大山川が形成した河岸段丘上に大規模な集落が出現する。桂ヶ谷遺跡は篠山盆地の西端にある三釈迦山北麓にあり、中期前半から居住がはじまり、中期後半から後期前半にかけて集落規模が最大となる。ここでは播磨系の「１〇型中央土坑」をもった竪穴建物が多数確認されており、篠山盆地が播磨に代表される瀬戸内系弥生文化の影響下にあったことを物語っている。またこの時期には内場山遺跡〔11〕のような高地性集落も出現している。

弥生時代後期～終末期になると、丘陵上に墳墓が築かれるようになる。台状墓、船底形木棺の使用、土器の破砕供献、鉄製品の副葬など、日本海（丹後）系の台状墓と共通する要素をもつものであり、当時の篠山盆地が日本海文化圏の中にあったことを物語る。この中で特異な存在が、内場山墳丘墓〔11〕である。盆地北西、宮田川上流の由良川水系に抜けるルート上にあり、舶載の素環頭大刀や鉄鏃など豊富な副葬品をもち、篠山盆地の最初の首長墓と目されている。また、桂ヶ谷遺跡の墓域として、三釈迦山北麓遺跡群〔20〕の中にも多数の弥生墳墓があるが、その中のずえが谷遺跡では、弥生時代後期～終末期の方形周溝墓群が確認されている。船底形木棺を埋葬施設としており、各棺には鉇や鉄鏃などの鉄器が副葬され、墓坑上からは破砕供献された土器が出土している。

古墳時代　篠山盆地には約1,000基の古墳があるが、前期の首長墓と目される古墳はこれまで確認されていない。隣接する丹波市（旧氷上郡）に前方後円墳の丸山古墳、三角縁神獣鏡が出土した親王塚古墳などが存在するのとは対照的である。この時期の古墳としては前期末～中期前半の上板井古墳群〔12〕や前山古墳〔13〕など、小規模な古墳が知られているのみである。上板井古墳群は盆地北西部にあり、１



1　板井寺ヶ谷遺跡
2　藤岡山遺跡
3　下篠見遺跡
4　西木之部遺跡
5　口阪本遺跡
6　岩崎四ノ坪遺跡
7　谷山遺跡
8　車塚の坪遺跡
9　桂ヶ谷遺跡
10　北野遺跡
11　内場山遺跡
　　内場山墳丘墓
　　内場山城跡
12　上板井古墳群
13　前山古墳
14　北条古墳
15　新宮古墳
16　よせわ１号墳
17　大滝２号墳
18　洞中１号墳
19　洞中２号墳
20　三釈迦山北麓遺跡群
21　山田古墳群
22　沢の浦２号墳
23　竜円寺遺跡
24　東浜谷遺跡
25　初田館跡
26　八上城跡
27　篠山城跡
28　篠山城採石場跡
29　姫塚古墳
30　イゴリ塚古墳
31　山ン谷古墳
32　スズ岡古墳
33　浦山古墳
34　稲荷古墳
35　宝地山２号墳
36　宝地山１号墳
37　鞍塚古墳
38　石クド古墳
39　箱塚４号墳
40　西山北古墳
41　庄境１号墳

第３図　周辺の遺跡

号墳・２号墳の２基の古墳が調査されている。１号墳は直径14mの円墳であり、割竹形木棺３基と箱式石棺１基の合計４基の埋葬施設をもつ。鉄剣や鉄斧などの副葬品が出土している。２号墳は直径13mの円墳であり、組合式木棺を直葬する。内行花文鏡１面などの副葬品が出土している。

この時期の丹波地域の中心は、蛭子山古墳・網野銚子山古墳・神明山古墳などの大型前方後円墳が築かれた日本海側の丹後地方（奈良時代までは丹波国の一部）にあり、篠山盆地にはいまだ大和王権と直接的な関係を結ぶことができる首長がいなかったのかもしれない。

中期になると、篠山盆地に突如として雲部車塚古墳をはじめとする大型古墳があらわれる。雲部車塚古墳とは谷一つ隔てた場所にある北条古墳〔14〕は、一辺30m、高さ５mほどの方墳であり、県指定史跡に指定されている。埋葬施設は粘土槨であり、鉄剣ないしは鉄ヤリが露出していたと伝えられている。墳丘から円筒埴輪のほか、靫形埴輪などの形象埴輪が出土している。雲部車塚古墳に先行する５世紀前葉から中葉にかけてつくられた古墳だと推定されている。また、北条古墳とは雲部車塚古墳を挟んで反対側の東本庄集落にある姫塚古墳〔29〕も一辺約30m、高さ３mほどの方墳であり、円筒埴輪が採集されている。同様な中期の大型方墳は亀岡市や綾部市など、丹波一円にみられ、この地域の特色となっている。

このほかに中期の大型古墳としては盆地中央部に大型円墳の新宮古墳〔15〕がある。直径52.5 m、高さ約７m、周囲に幅17mの周濠をめぐらせた盆地最大の円墳である。墳丘は２段築成であるが、葺石・埴輪の存在は不明である。1687（貞享４）年に書かれた『篠山領地誌』によると、石棺の存在、棺内からの甲冑・大刀の出土が伝えられている。５世紀後半のものとされている。

これに続く中期末頃の古墳としては、よせわ１号墳〔16〕があげられる。すでに消滅しており墳形・規模は不明であるが、埋葬施設は石を敷き詰めた礫床をもつ粘土槨と推定されている。鈴付鏡板や三環鈴などの馬具、画文帯神獣鏡などが出土している。５世紀末から６世紀前葉の年代が与えられている。

後期になると、大型古墳は築かれなくなり、小型の前方後円墳が首長墓として築かれる。盆地西部の大滝２号墳〔17〕は全長20mの前方後円墳であり、埴輪をもつ。埋葬施設は２基の木棺であり、鉄刀などが出土している。雲部車塚古墳からほど近い盆地東部に、篠山盆地最大の横穴式石室をもつ洞中１号墳〔18〕がある。現状は直径22m、高さ５mの円墳であるが、もとは直径30mほどの規模があったと推定されている。埋葬施設は両袖の横穴式石室であり、玄室は長さ6.6 m、幅2.4 m、高さ3.5 m、羨道は長さ8.4 m、幅1.7 m、高さ1.7 mの規模を誇る。早くに開口していたため、出土遺物は伝えられていない。洞中２号墳〔19〕は１号墳の南東にある全長約35mの前方後円墳である。後円部に全長10.7 mの片袖の横穴式石室をもつ。このほかに宮田川流域の箱塚古墳群中の４号墳〔39〕は、直径19mの横穴式石室をもつ円墳であるが、篠山盆地の後期古墳では数少ない埴輪をもつ古墳である。

この時期には、盆地の各地に小型古墳からなる古墳群が形成される。まとまった数の古墳が調査されている例は少ないが、近年、丹波並木道中央公園の開発にともない調査された盆地西部の三釈迦山北麓遺跡群（ずえが谷古墳群・灰高古墳群・ずえ奥古墳群など）〔20〕では、５世紀後半の木棺直葬墳から群形成がはじまり、以後１世代１～２基程度の築造が継続し、６世紀前半には埋葬施設を横穴式石室に転換して、７世紀初頭まで連綿と墳墓の造営が継続する様子が明らかになっている。

また後期末の古墳からは装飾大刀が出土する。盆地西部の山田古墳群〔21〕では、１号墳から金銅装大刀が、２号墳からは金銅装の単鳳環頭大刀が出土している。北西部の沢の浦２号墳〔22〕や南西部の庄境１号墳〔41〕からは、鍔に銀象嵌がある大刀が出土している。

古墳時代の集落遺跡としては、桂ヶ谷遺跡〔９〕・北野遺跡〔10〕・内場山遺跡〔11〕などで竪穴建物が調査されているが、雲部車塚古墳に関連する大規模な集落遺跡や豪族居館などは未確認である。

歴史時代　古墳の築造が７世紀初頭に終わると、篠山盆地でも寺院の築造がはじまる。盆地中央部の竜円寺遺跡〔23〕が代表的な遺跡であり、奈良時代の瓦が出土している。律令時代には、篠山盆地は丹波国多紀郡となり、郡の行政を担う郡衙が現在の篠山市郡家に置かれた。東浜谷遺跡〔24〕では「郡」の刻印や「厨」の字の書かれた土器が出土しており、郡衙の有力な候補地となっている。この時期には都と山陰地方を結ぶ古代官道である古代山陰道が整備され、篠山盆地を東西方向に通過するルートが想定されている。また盆地北西部、由良川水系へと抜けるルート上にある西木之部遺跡〔４〕では、奈良時代～平安時代の緑釉陶器や石帯など、官衙的な遺物が出土しており、この地の荘園経営の拠点と考えられている。

中世には盆地西部の大山川流域は東寺領大山荘となり、荘務に関連する文書が『東寺文書』に多く残され、荘園経営の実態を知る上で重要な資料となっている。また、この時代には篠山盆地にも多くの城館が築かれる。盆地西南部の初田にある初田館跡〔25〕は、「酒井勘四郎館」と伝えられる館跡であり、発掘調査により13世紀～16世紀に至る遺構・遺物が確認されている。室町時代には、丹波国は幕府管領の細川京兆（けいちょう）家が守護をつとめるが、応仁・文明の乱後、細川京兆家の内紛の中で、篠山盆地中央部の八上城〔26〕を拠点とする波多野氏が台頭する。波多野氏は以後、16 世紀後半まで細川京兆家、三好政権、織田政権と、時の中央政界とつながりをもちながら、丹波に勢力を保持するが、1576（天正４）年、氷上郡の赤井氏とともに織田政権に反旗をひるがえす。そして1579（天正７）年、明智光秀による丹波攻めにより、八上城は落城し波多野氏は滅亡、ここに篠山盆地の中世は終焉する。

江戸時代に入り、徳川幕府は山陰道の要衝として篠山盆地を重視し、西国大名の合力により、盆地中央部に新たな城郭―現在の篠山城〔27〕を築く。盆地西部には、この築城時の石切場があり、篠山城採石場跡〔28〕として調査がおこなわれている。篠山城は、明治以後廃城となり、役所・学校などとして利用されてきたが、近年史跡整備のための調査がおこなわれており、大書院の復元をはじめ、城跡の整備が進められている。

雲部車塚古墳が所在する現在の篠山市東本荘は、明治以降、兵庫県多紀郡雲部村に属していたが、1954（昭和 29）年に周辺の日置・後川の２村と合併して多紀郡城東町となった。1975（昭和50）年には城東町が篠山・多紀の２町と合併して篠山町となり、さらに1999（平成11）年に篠山町が丹南・西紀（にしき）・今田の３町と合併したことにより篠山市となって現在に至っている。　（多賀茂治）

〈参考文献〉

芦田　茂　1993『丹南町遺跡分布地図 国庫補助事業遺跡詳細分布調査事業』西紀・丹南町文化財調査報告第 12 集 西紀・丹南町教育委員会
池田正男　1994「第２章　地方政権の誕生」『丹南町史』上巻　丹南町　pp.221-298
池田正男　1988「篠山盆地における古墳群の動態」『歴史学と考古学』高井悌三郎先生喜寿記念論集　真陽社 pp.235-268
多賀茂治　2002「兵庫丹波における弥生集落の動態」『みずほ』第37号　大和弥生文化の会　pp. 37-52
西田辰博・芦田　茂　1995『西紀町遺跡分布地図』西紀・丹南町文化財調査報告第15集　西紀・丹南町教育委員会
山本明彦（編）　1989『篠山町遺跡詳細分布調査報告書』篠山町文化財資料第10集　篠山町教育委員会

〈遺跡文献〉

1　山口卓也(編)　1991『板井寺ヶ谷遺跡 旧石器時代の調査』兵庫県文化財調査報告第96－1冊　兵庫県教育委員会
2　深井明比古　1992「藤岡山遺跡」『兵庫県史』考古資料編　兵庫県　pp.101-102
3　大槻　伸　1992「下篠見遺跡」『兵庫県史』考古資料編　兵庫県　p.151
4　池田正男・村上泰樹(編)　1993『西木之部遺跡』兵庫県文化財調査報告第124冊　兵庫県教育委員会
5　松下　勝・岡田章一・渡辺　昇・佐藤良二　1981『丹波・口阪本遺跡―昭和53年度団体営圃場整備事業に伴う発掘調査概要―』西紀・丹南町文化財調査報告第1集　西紀・丹南町教育委員会
6　大槻　伸・粟野章治・中野卓郎・渡辺　昇　1980『古代祖先のあゆみ』篠山町教育委員会
7　大槻　伸・粟野章治・中野卓郎・渡辺　昇　1980『古代祖先のあゆみ』篠山町教育委員会
8　粟野章治(編)　1984『雲部車塚古墳―道路改良工事に伴う周庭帯の発掘調査報告書―』篠山町教育委員会・篠山町文化協会
9　兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所　2000『年報』平成11年度　兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所　2001『年報』平成12年度　兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所　2002『年報』平成13年度　兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
10　西田辰博　1992「北野遺跡」『大山荘内埋蔵文化財調査概要報告書』西紀・丹南町文化財調査報告第10集　西紀・丹南町教育委員会　pp.45-53
11　中川　渉(編)　1993『内場山城跡』兵庫文化財調査報告第126冊　兵庫県教育委員会
12　市橋重喜(編)　1986『上板井古墳群』兵庫文化財調査報告第34冊　兵庫県教育委員会
14　宇杉幸知(編)　1970『北条古墳』多紀学生地方史研究会
富田好久・亥野　彊・田中　勲・勇　正廣　1974『篠山・多紀町の古墳　新宮古墳・碁石塚の調査 小田中・小立周辺古墳の調査』多紀郡文化財調査報告第4冊　多紀郡教育事務組合教育委員会
櫃本誠一　1992「北条古墳」『兵庫県史』考古資料編　兵庫県　pp.556-557
15　富田好久・亥野　彊・田中　勲・勇　正廣　1974『篠山・多紀町の古墳　新宮古墳・碁石塚の調査 小田中・小立周辺古墳の調査』多紀郡文化財調査報告第4冊　多紀郡教育事務組合教育委員会
勇　正廣　1992「新宮古墳」『兵庫県史』考古資料編　兵庫県　pp.554-555
16　前田豊邦・中野卓郎　1978『よせわ古墳 地方改善菅地区圃場整備事業に伴う遺跡調査概報』篠山町
17　富田好久・亥野　彊・勇　正廣・大路　靖　1981『大滝二号古墳』多紀郡西紀・丹南町文化財調査報告第2集　西紀・丹南町教育委員会
18　櫃本誠一　1992「洞中古墳群」『兵庫県史』考古資料編　兵庫県　pp.558-559
19　櫃本誠一　1992「洞中古墳群」『兵庫県史』考古資料編　兵庫県　pp.558-559
20　兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所　2000『年報』平成11年度　兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所　2001『年報』平成12年度　兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所　2002『年報』平成13年度　兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所　2001『丹波篠山三釈迦山北麓の遺跡―丹波並木道中央公園整備事業に伴う埋蔵文化財調査概要―』兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
22　市橋重喜(編)　1987『沢の浦古墳群』兵庫県文化財調査報告第48冊　兵庫県教育委員会
23　池田正男・芦田　茂　1983「竜円寺遺跡（第3次調査）」『兵庫県埋蔵文化財調査年報』昭和56年度　兵庫県教育委員会　pp.53-55
芦田　茂　1992「竜円寺遺跡」『兵庫県史』考古資料編　兵庫県　p.702
24　池田正男　1992「東浜谷遺跡」『兵庫県史』考古資料編　兵庫県　pp.698-699
25　岡崎正雄(編)　1992『初田館跡』兵庫県文化財調査報告第116冊　兵庫県教育委員会
28　渡辺　昇(編)　1988『篠山城採石場跡』兵庫県文化財調査報告第57冊　兵庫県教育委員会
34　富田好久・亥野　彊・田中　勲・勇　正廣　1974『篠山・多紀町の古墳　新宮古墳・碁石塚の調査 小田中・小立周辺古墳の調査』多紀郡文化財調査報告第4冊　多紀郡教育事務組合教育委員会
39　岡崎正雄(編)　1993『箱塚古墳群』兵庫県文化財調査報告第127冊　兵庫県教育委員会
40　駒井　功・遠藤順昭・安田博幸　1972『西山北古墳調査報告書』多紀郡文化財調査報告書第1冊　多紀郡教育事務組合教育委員会
41　岡田章一・渡辺　昇・別府洋二ほか　1987『庄境1号墳』兵庫県文化財調査報告第41冊　兵庫県教育委員会